

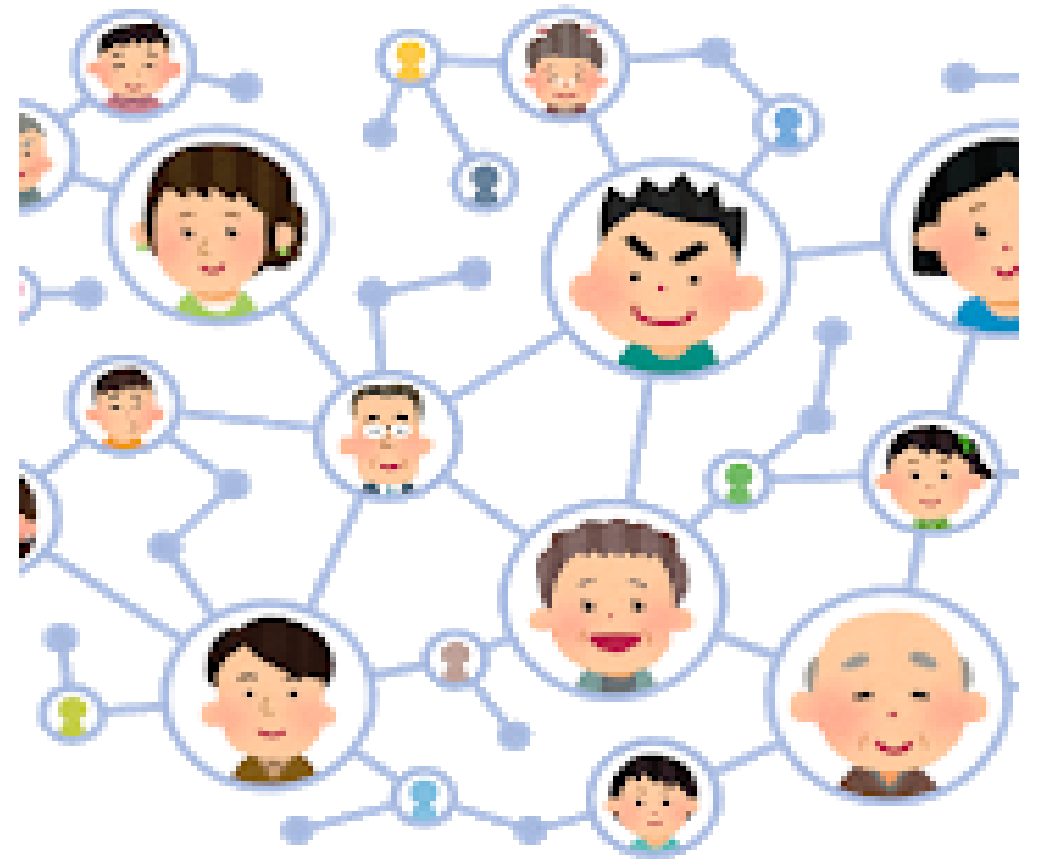
子どもとインターネット

公衆衛生看護学 上級実践コース

21mn002 石塚美優

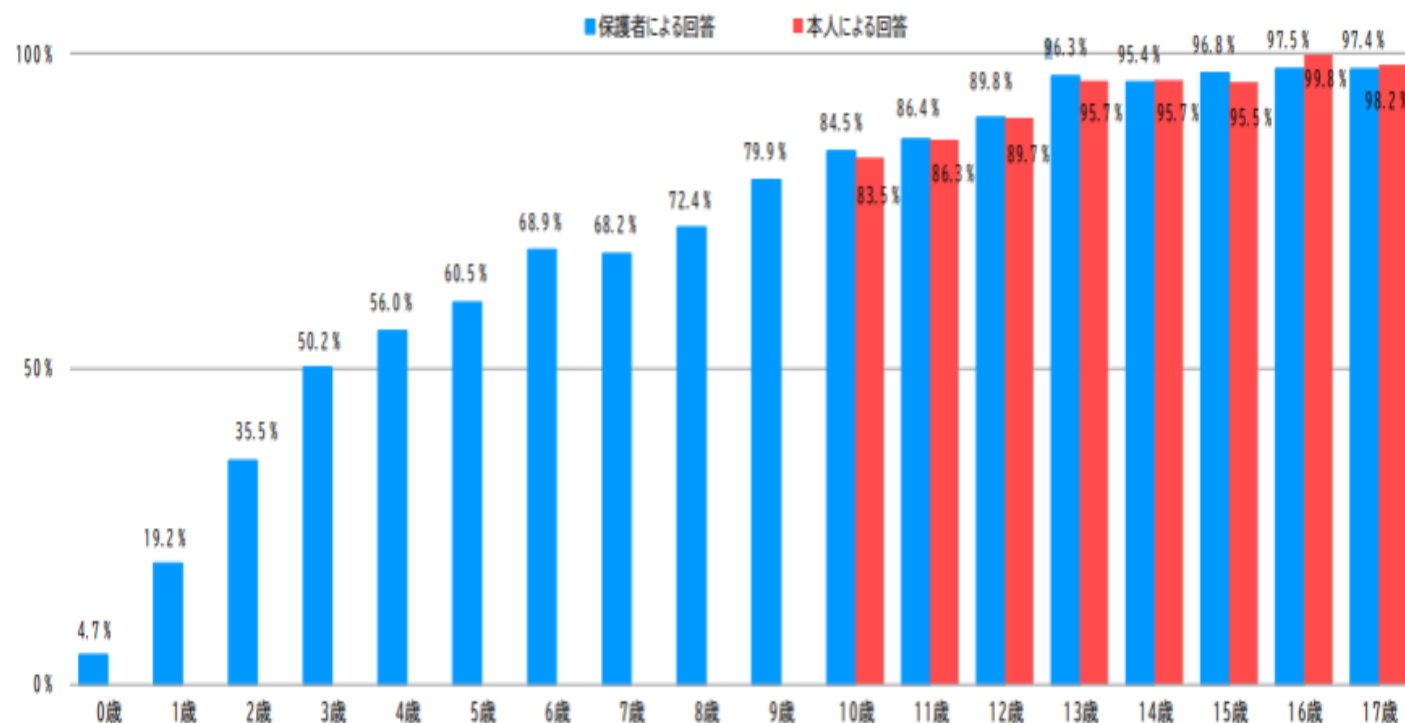
OUTLINE

1. インターネットと犯罪被害
2. ICT教育
3. 意思決定に必要な能力

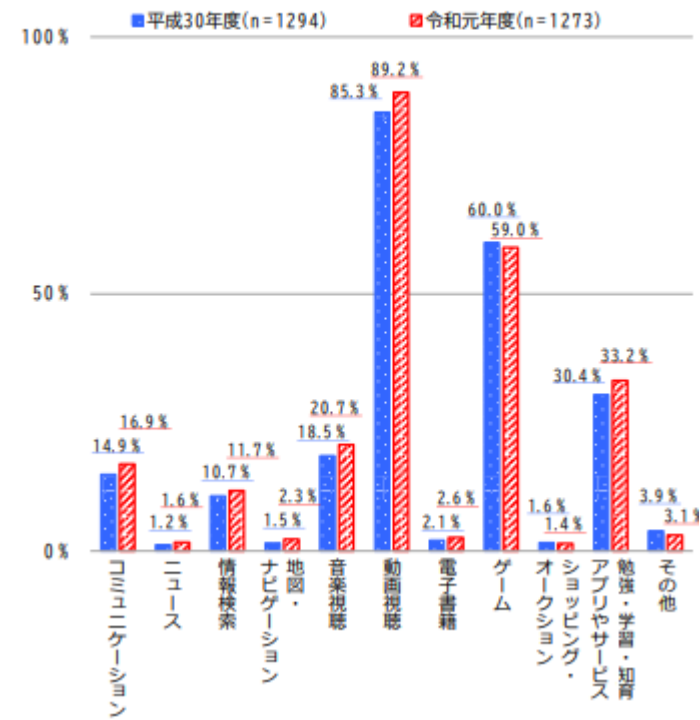


子どものインターネット使用率

インターネット利用率（年齢別・令和元年度）



インターネット利用内容
（いずれかの機器／平成30年度、令和元年度）

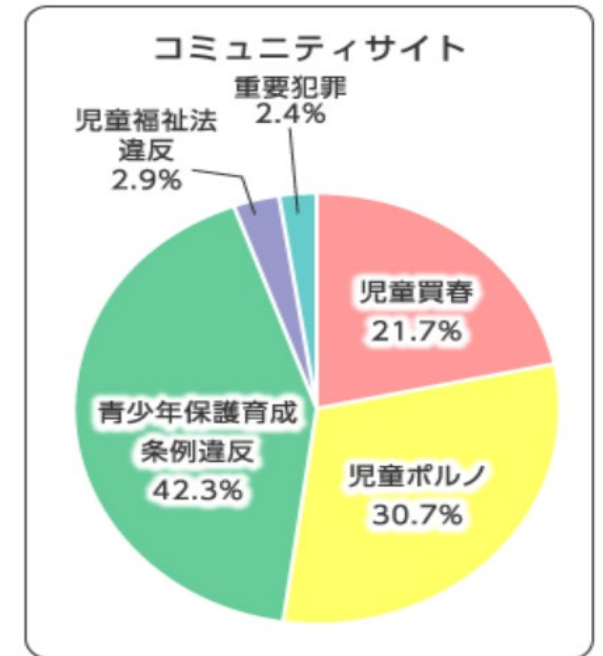
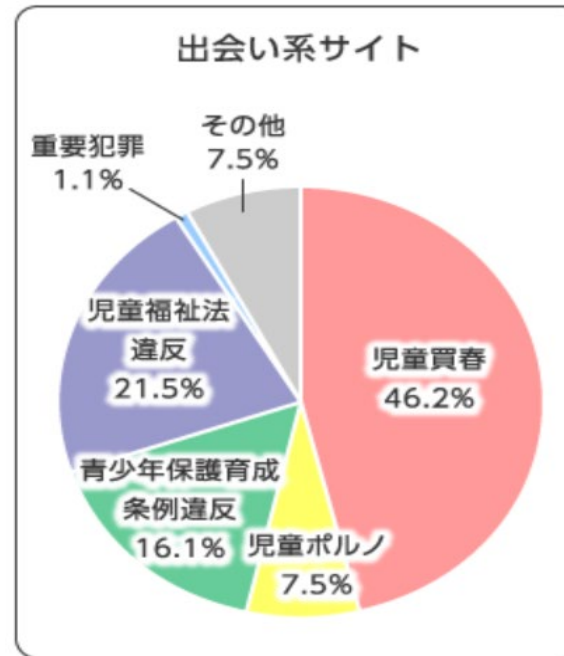
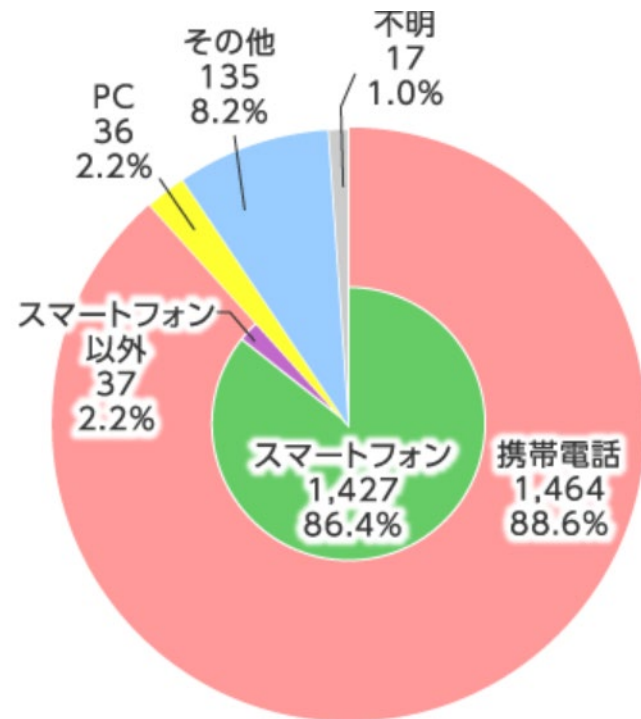


うち7割がスマートフォン利用

子どものネット犯罪被害状況

出会い系サイトやコミュニティサイトを悪用した犯罪の被害にあった**18歳未満の子供(児童)**の数は
平成21年:1,600人弱 / 平成24年:1,300人弱 / 平成27年:**1,745人**

罪の種類別の被害児童数割合



なぜ犯罪につながるのか

- 相手の顔が見えない(言葉巧みに近づく人がいる)
- 一度発信した情報は不特定多数の人に広がり、後から消去することはほとんど不可能
- インターネットでの情報発信は個人を特定できる可能性がある
(位置情報・背景・制服等)
- 子どもたちは、**経験、常識、判断力**の不足によって犯罪に巻き込まれやすい(成人も)
- インターネットは、匿名性が高いように見えるが、様々な情報から**容易に個人が特定**される。
- 社会のモラル**やルールが身についていない

小・中・高等学校共通のポイント（総則）

- **情報活用能力**を、言語能力と同様に「**学習の基盤となる資質・能力**」と位置付け

総則において、児童生徒の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとすることを明記。【総則】

- **学校のICT環境整備**とICTを活用した学習活動の充実に配慮

総則において、情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実に配慮することに配慮することを明記。【総則】

小・中・高等学校別のポイント（総則及び各教科等）

- 小学校においては、文字入力など基本的な操作を習得、**新たにプログラミング的思考を育成**

各教科等の特質に応じて、児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動や、プログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施することを明記。【総則】

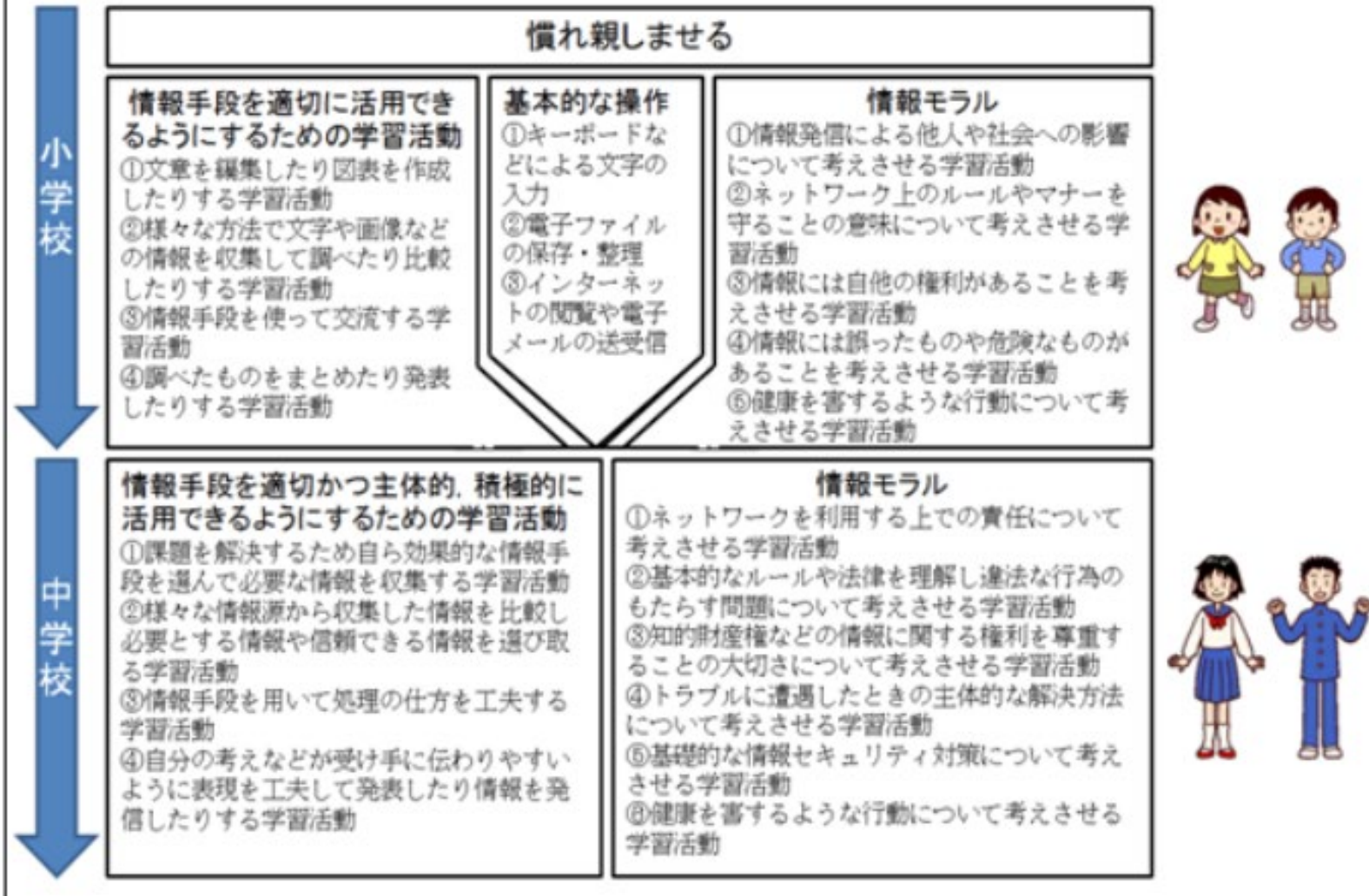
- 中学校においては、技術・家庭科（技術分野）において**プログラミング**、情報セキュリティに関する内容を充実

「計測・制御のプログラミング」に加え、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング」等について学ぶ。【技術・家庭科（技術分野）】

- 高等学校においては、**情報科において共通必修科目「情報Ⅰ」を新設**し、全ての生徒がプログラミングのほか、ネットワーク（情報セキュリティを含む）やデータベースの基礎等について学習

「情報Ⅰ」に加え、選択科目「情報Ⅱ」を開設。「情報Ⅰ」において培った基礎の上に、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいはコンテンツを創造する力を育成。【情報科】

小学校から中学校への接続



情報教育の目標

- 1) 情報活用の実践力
- 2) 情報の科学的な理解
- 3) 情報社会に参画する態度

図 4-1 小学校から中学校への接続

情報リテラシーの実態

文科省の調査・RST調査

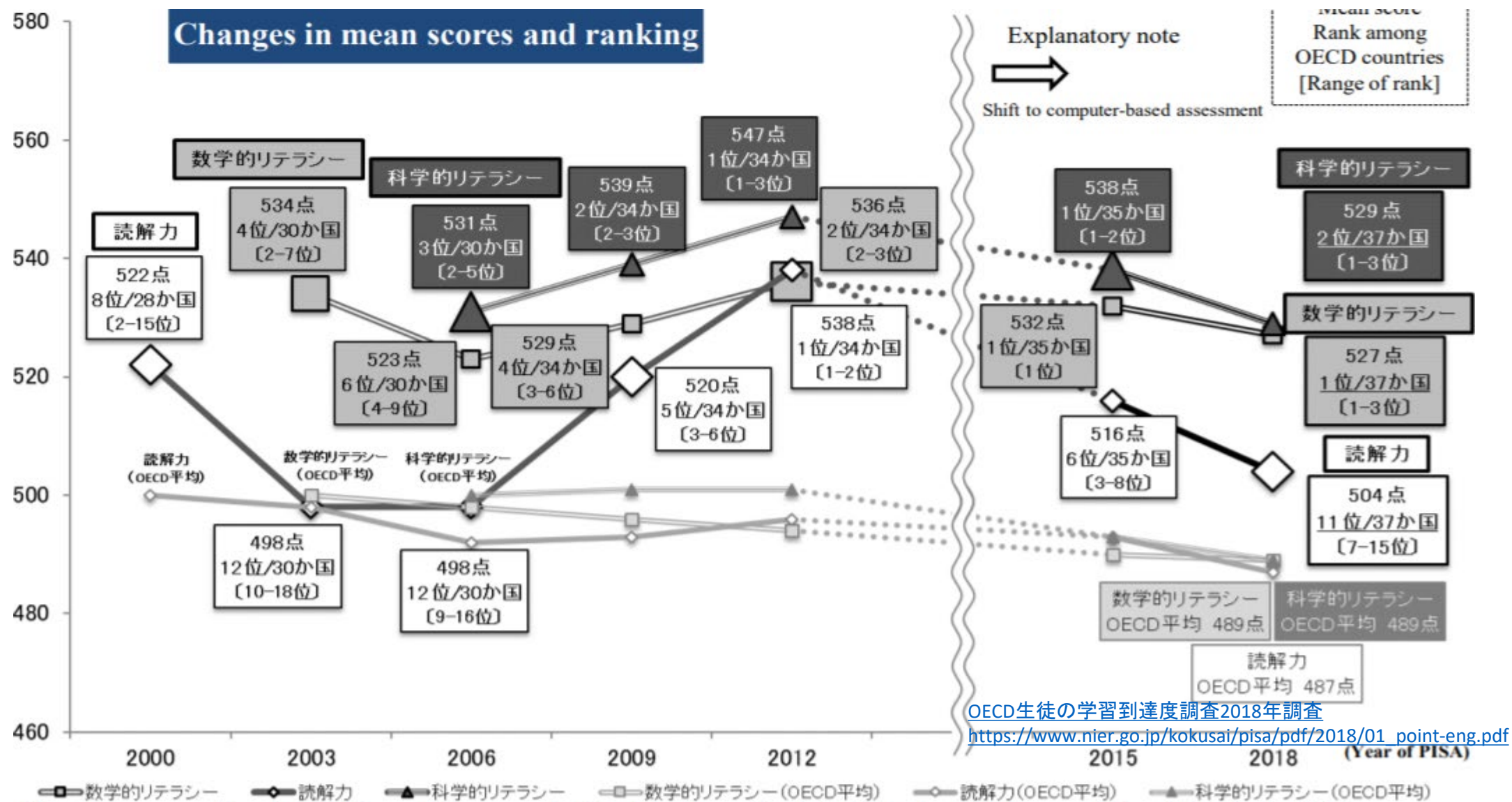
情報の検索が可能
算数: 数式が解ける

複数の情報を目的に応じて見つけ出す(低)
複数の統計情報を統合させ意見を言う(低)
教科書レベルの文章を正確に読解(低)
算数: 文章題だと正答率(低)

ICTを利用した情報の適切な発見や処理、それらの情報をもとに考えを表現することが課題。
情報社会に関する理解が表層的な段階であり、情報リテラシーが低い。

⇒ **読解力**が乏しいのではないか

OECD調査推移



読解力の定義

【読解力の定義】

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

※下線部は2018年調査からの定義変更箇所

- コンピュータ使用型に移行し、デジタルテキストを踏まえた設計となったため、「書かれたテキスト」から「テキスト」に変更。（デジタルテキスト：オンライン上の多様な形式を用いたテキスト（Webサイト、投稿文、電子メールなど））
- 議論の信ぴょう性や著者の視点を検討する能力を把握するため、テキストを「評価する」という用語を追加。

測定する能力

①情報を探し出す

- ーテキスト中の情報にアクセスし、取り出す
- ー関連するテキストを探索し、選び出す

②理解する

- ー字句の意味を理解する
- ー統合し、推論を創出する

③評価し、熟考する

- ー質と信ぴょう性を評価する
- ー内容と形式について熟考する
- ー矛盾を見つけて対処する

（下線部は、2018年調査から新たに定義に追加された要素）

- 学校内外の様々な場面で実施される小学校プログラミング教育について、**A～Fの6種に学習活動を分類。**
- プログラミング教育は、学習指導要領に例示されている単元等はもちろんのこと、多様な教科・学年・単元等を取り入れることや、教育課程内において、各教科等とは別に取り入れることも可能であり、各学校の教育目標や、学校や地域の実態等を踏まえ、A～C分類の学習活動を様々な場面で取り入れながら、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を行う必要があります。

教育課程内

A 学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの

B 学習指導要領に例示されていないが、学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

C 教育課程内で各教科等とは別に実施するもの

D クラブ活動など、特定の児童を対象として、教育課程内で実施するもの

教育課程外

E 学校を会場とするが、教育課程外のもの

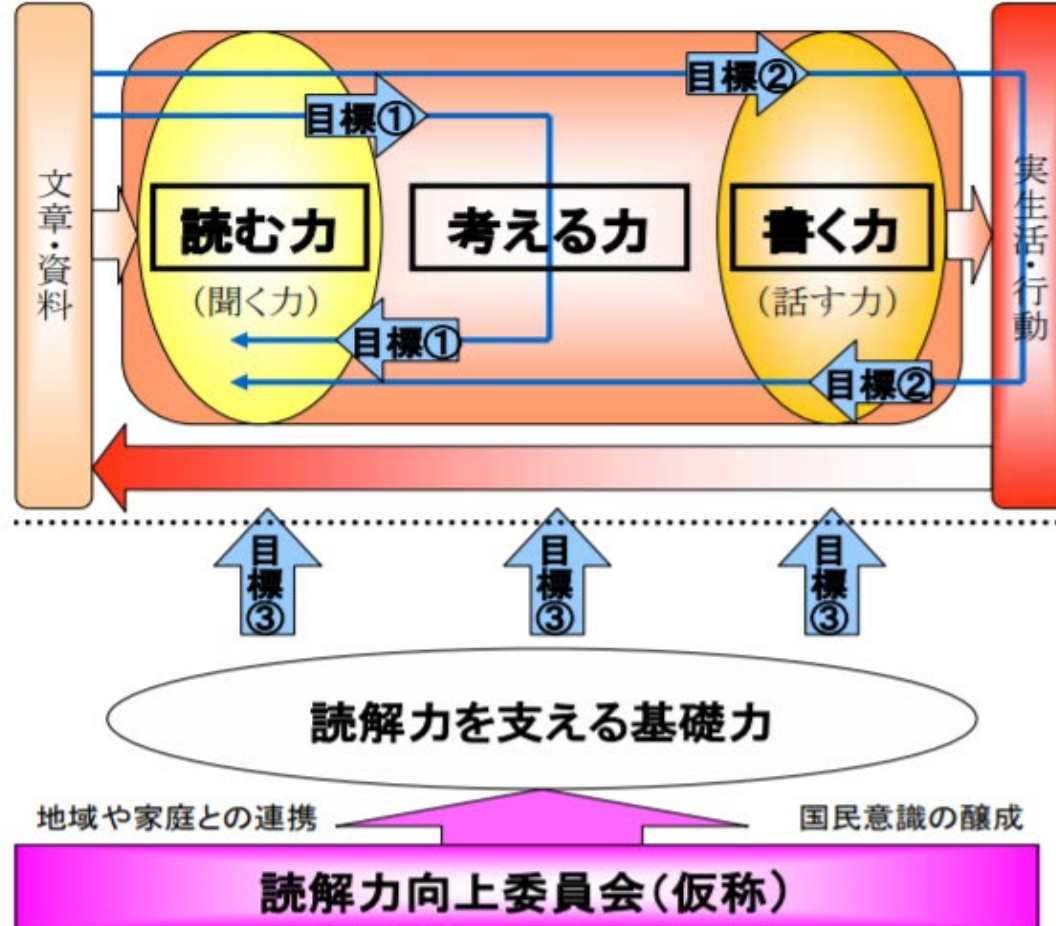
F 学校外でのプログラミングの学習機会

読解力向上プログラムの全体像(たたき台)

PISA型「読解力」

PISA型「読解力」= 自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれた文章や資料を理解し、利用し、熟考する能力

※文章や資料から「情報を取り出す」ことに加えて、「解釈」「熟考・評価」「論述」することを含む
 ※「考える力」を中核として、「読む力」「書く力」を総合的に高めていくことが重要



学校での取組

～3つの重点目標～

【目標①】
テキストを理解・評価しながら「読む力」を高める取組の充実

- i テキストの内容や形式などの「解釈」や「理解・評価」する取組の充実
- ii 「建設的な批判を伴う読み(クリティカルリーディング)」の導入

【目標②】
テキストに基づいて自分の考えを「書く力」を高める取組の充実

- i テキストの内容を「要約」「紹介」する取組の充実
- ii 授業の最後に「自分の考えを簡潔に書かせる」などの機会の充実
 (自分の考えをA4一枚程度で表現)

【目標③】
様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

- i 「朝の読書」など読書活動の推進
- ii 新聞や科学雑誌などを含め、「幅広い読み物」に触れる機会の充実(NIE活動など)
- iii 「目的に応じた自分の意見」を述べたり、書く機会の充実

国・教委の取組

～5つの重点戦略～

【戦略1】学習指導要領の見直し
 (中教審で基本的な方向性を取りまとめ予定【本年秋まで】)

【戦略2】授業改善・教員研修の充実

- 国語力向上モデル事業【拡充】
- 全国読解力向上フェア【新規】
- 指導資料の作成・配布【今回配布】
- 指導事例集の作成【年度内】
- 教員向けハンドブックの作成【年度内】
- 国語力向上研修【継続】
- 海外の研修事情の調査研究【年度内】等

【戦略3】学力調査の活用・改善等

- 国際学力調査(PISA)の活用
- 全国的な学力調査の実施【新規】
- 自治体独自の学力調査問題の改善
- 高校・大学入試問題の改善 等

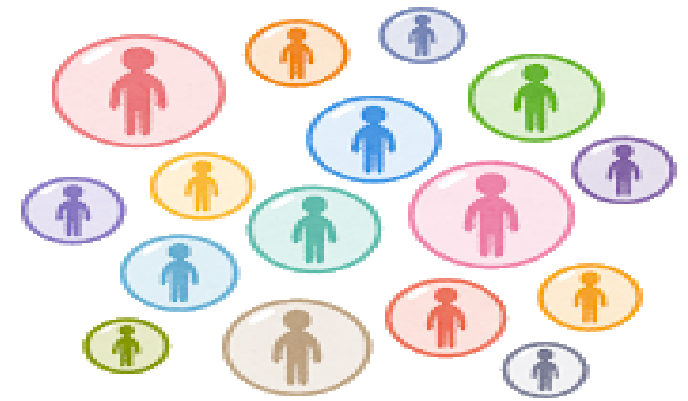
【戦略4】読書活動の支援充実

- 学校図書館の蔵書の充実
- 学校図書館支援センターの在り方に関する調査研究 等

【戦略5】読解力向上委員会(仮称)

- 日本PTA全国協議会
- 日本図書館協会
- 全国学校図書館協議会
- 日本新聞協会、日本雑誌協会 等

必要な能力



読解力

- ・思考力
- ・判断力
- ・表現力

+

ICT教育

- ・情報モラル
- ・プログラミング的思考



情報リテラシー

子どものITによる犯罪が増加⇒初等教育で情報リテラシーを身に付ける必要がある
新学習指導要領に情報活用能力の育成とICTの活用について公示された。
→小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から全面实施。高等学校は令和4年度から学年進行で実施。

惑わされないために、「入手」「理解」「評価」し、意思決定を行う
⇒子どもたちだけでなく教職員の教育も重要

参考文献

- ・ 令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果(速報) 令和2年3月 内閣府
https://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_torikumi/tyousa/r01/net-jittai/pdf/sokuhou.pdf
- ・ 政府広報オンライン 暮らしに役立つ情報 <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201503/3.html>
- ・ あなたのお子さんは大丈夫？スマホ、携帯にご注意を！ ネット犯罪の落とし穴(2017年3月) 政府広報オンライン <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201503/3.html>
- ・ [学習指導要領のポイント 文部科学省](#)
- ・ https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/fieldfile/2019/05/21/1416331_001.pdf
- ・ [文部科学省 第4章 情報教育：文部科学省 \(mext.go.jp\)](#)
- ・ 堀田龍也,佐藤和紀(2019)日本の初等中等教育における情報リテラシーに関する教育の動向と課題,電子情報通信学会
https://www.jstage.jst.go.jp/article/bplus/13/2/13_117/_pdf/-char/ja
- ・ [OECD生徒の学習到達度調査2018年調査](#)
- ・ https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point-eng.pdf